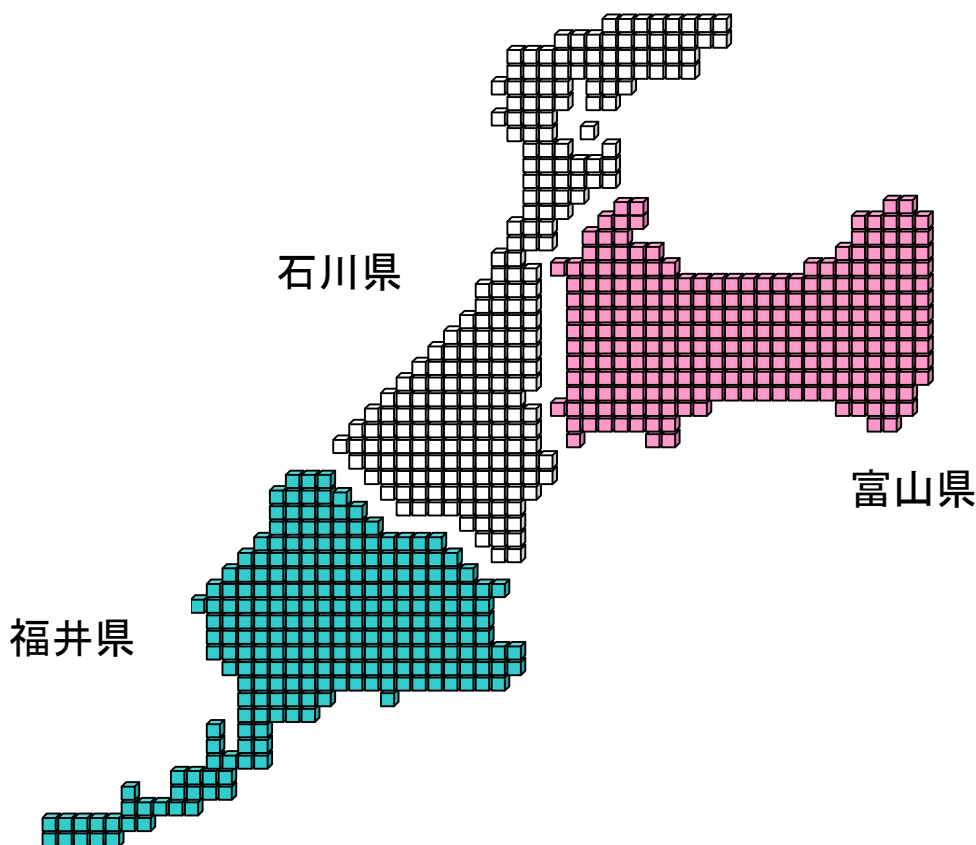


管内経済情勢報告



令和5年1月

財務省北陸財務局

お問合せ先
財務省 北陸財務局 経済調査課
TEL (076) 292-7858

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに持ち直している」

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）5年1月判断は、前回4年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、ドラッグストア販売が順調となっており、百貨店・スーパー販売が緩やかに持ち直していることなどから、全体では緩やかに持ち直している。生産活動は、生産用機械が拡大しているものの、電子部品・デバイスが弱い動きとなっていることなどから、全体では回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
個人消費	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↗
生産活動	緩やかに回復しつつある	回復に向けた動きに一服感がみられる	↘
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
設備投資	4年度は増加見込みとなっている	4年度は増加見込みとなっている	→
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	4年度は増益見込みとなっている	→
住宅建設	持ち直しに向けた動きに一服感がみられる	弱含んでいる	↘

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、百貨店では衣料品や高額品に動きがみられることから、前年を上回っている。スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、前年を上回っている。以上のような状況を踏まえると、緩やかに持ち直している。コンビニエンスストア販売は、米飯類等に動きがみられることから、堅調となっている。ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられることに加え、新規出店効果がみられることから、順調となっている。ホームセンター販売は、日用品等の動きが鈍いことから、弱含んでいる。家電大型専門店販売は、パソコンに動きがみられるものの、暖房器具等の動きが鈍いことから、横ばいの状況にある。新車販売台数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに前年を上回っており、緩やかに持ち直しつつある。主要観光地の入込客数及び主要温泉地の宿泊客数は前年を上回っている。旅行取扱実績は、海外旅行は厳しい状況にあるものの、国内旅行は全国旅行支援の効果により動きがみられる。以上のことから、個人消費については、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 引き続き、衣料品や高額品の売れ行きが良いほか、行動制限もなく、地元のシニア層や家族連れ、観光客の姿も多く見られている。(百貨店)
- 依然として飲食料品の売れ行きが良く、年末年始は帰省した家族を迎えるためのオードブルや寿司が好調だった。(スーパー、中堅企業)
- 観光地周辺の店舗を中心に客数が増加しており、おにぎりなど米飯類の売れ行きが良い。(コンビニエンスストア、大企業)
- 飲食料品の売れ行きが良いほか、感染再拡大により解熱剤等に動きがみられる。(ドラッグストア、中堅企業)
- 物価高による節約意識の影響から他業態との競争が増しており、日用品の買上点数が減少しているほか、12月半ばまで気温が高く推移したため、暖房器具等の動きが鈍かった。(ホームセンター、大企業)
- OSのサポート終了に伴い、パソコンの買い替え需要がみられたものの、気温の高い状況が12月半ばまで続いたため、エアコン等の暖房器具の動きが鈍かった。(家電大型専門店、中堅企業)
- 引き続き納車までの期間は長いものの、一部車種では若干の改善がみられている。また、受注は順調に推移している。(自動車販売店、中小企業)
- 全国旅行支援によって宿泊客数は好調となっており、特に県外からの宿泊客の割合が増加している。(温泉地)
- 全国旅行支援により観光客が増加し、土産物店や飲食店が賑わっている。(不動産、中堅企業)

■ 生産活動 「回復に向けた動きに一服感がみられる」

電子部品・デバイスは、スマートフォン向けを中心に弱い動きとなっている。化学は、大宗を占める医薬品で、持ち直している。生産用機械は、繊維機械、半導体製造装置を中心に拡大している。金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、ビル用が持ち直しつつあるものの、住宅用が足踏みの状況にあることから、持ち直しに向けた動きに一服感がみられる。繊維は、衣料向け、非衣料向けともに緩やかに持ち直しつつある。以上のことから、生産活動については、回復に向けた動きに一服感がみられる。

- スマートフォン向けについて、中国メーカー向けが中国市場の冷え込みやセットメーカーの生産調整等の影響により生産水準を落としているほか、北米メーカー向けも足下で受注の落ち込みにより在庫が積み上がっている。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 後発医薬品の需要が引き続き増加しているため、製剤工場及び原薬工場ともに休日出勤を実施し、フル稼働で対応している。(化学、中堅企業)
- 工場はフル稼働を続けている。新規受注は、中国向けで減速感があるもののインド向けが非常に好調。(生産用機械、大企業)
- ビル用建材については首都圏向けを中心に動きがみられるものの、持家の着工戸数が減少傾向にあることから、住宅用建材やエクステリアの動きが鈍くなっている。(金属製品、大企業)
- 主力の車両資材は、半導体不足などによる自動車減産の影響で落ち込んでいたが、8月後半から受注が戻り始めており、生産は回復傾向にある。(繊維、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は緩やかに低下しているものの、求人は底堅く推移している。新規求人数は前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っている。雇用保険受給者実人員は前年を下回っている。以上のことから、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 随時、中途採用なども行っているが必要な人員を確保できていない。業況の回復により工場のオペレーターが特に不足しており、事務職からも工場へ応援に行っている。(繊維、大企業)
- 人手不足の状態が続いているものの、近年、休暇制度など働きやすい環境をアピールしていることもあって、子育てがひと段落した女性の中途採用が増えている。(生産用機械、中小企業)

- 製造ラインのオペレーターなどの人材ニーズが高まっているため、派遣者数が増加し、派遣単価も上昇している。(職業紹介・労働者派遣業、中小企業)
- 小売店テナントの誘致に際し、スタッフ確保に目途が立たないとして、見送りとされる場合も出ている。(不動産、大企業)
- 温泉旅館では、全国旅行支援の開始以降、特に週末には感染症前まで来客数が戻るなど繁忙となっているが、コロナ禍で他業種に流れた従業員が戻らないことなどから、人材不足感が強まっている。(観光協会)

■ 設備投資 「4年度は増加見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業では、情報通信機械器具などが増加となるものの、生産用機械器具、金属製品などが減少となることから、全体では減少見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信などが減少となるものの、小売、運輸・郵便などが増加となることから、全体では増加見込みとなっている。

- 生産設備の拡充などにより、増加見込み。(情報通信機械器具、大企業)
- 新規出店や物流倉庫の整備などにより、増加見込み。(小売、中堅企業)
- 前年度に実施した大型投資の反動などにより、減少見込み。(生産用機械器具、大企業)

■ 企業収益 「4年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業では、金属製品などが減益となるものの、化学工業などが赤字縮小、繊維工業などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、情報通信などが減益となるものの、学術研究・専門・技術サービス、運輸・郵便などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

■ 企業の景況感 「『上昇』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 企業の景況判断BSIは、製造業、非製造業ともに「上昇」超となっている。なお、先行きは、全産業では5年1-3月期は「下降」超、5年4-6月期は「上昇」超となる見通しとなっている。

■ 住宅建設 「弱含んでいる」

- 新設住宅着工戸数でみると、弱含んでいる。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

- 前払金保証請負金額でみると、前年を下回っている。

■ 金融機関の貸出金 「前年を上回っている」

- 金融機関の貸出金は、前年を上回っている。




■ 企業倒産 「前年を上回っている」

- 負債総額は前年を下回っているものの、件数は前年を上回っている。

■ 消費者物価(金沢市、生鮮食品を除く総合) 「前年を上回っている」

- 消費者物価指数でみると、前年を上回っている。

3. 各県の総括判断

	前回(4年10月判断)	今回(5年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
石川県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は回復に向けた動きに一服感がみられる。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
富山県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は回復に向けた動きに一服感がみられる。また、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
福井県	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きに一服感がみられる		個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は足踏みの状況にある。また、雇用情勢は、持ち直している。